

豊西中だより

12月号

吹田市立豊津西中学校

令和7（2025）年12月3日



『楊震の四知』から学ぶ



校長 森田 直樹

12月に入り、今年も残りあとわずかになりました。クリスマスや年末の大掃除など、年始の準備で忙しい時期になっていきます。また「師走」は、「僧侶（師は、僧侶の意）が仏事で走り回る忙しさから。」という平安時代からの説（色葉字類抄）もありますが、これは「語源俗解（言語学的な根拠がない、あてずっぽうの語源のこと）による宛て字であり、平安時代にはすでに、「しはす」の語源は分からなくなっていた。」とも言われています。年末年始、日本各地で行われる伝統・風習は様々あります。例えば、大晦日に食べる「年越しそば」は、「江戸時代に定着した日本の文化」と言われています。そばは、「他の麺類よりも切れやすく『今年1年の災厄を断ち切る』という意味で年越し前に食べる。」とも言われています。深夜0時を挟んで108回突かれる「除夜の鐘」も、「人には百八の煩惱があり、その煩惱を祓うため。」とも言われています。このように、伝統・風習には意味があります。なんとなく過ごすのではなく、時間のある時一緒に、意味を調べてみると意外と面白い発見があるかもしれません。

さて、標題にある『楊震の四知』とは『天知る、地知る、我知る、汝知る』を指します。「後漢の政治家である楊震が、かつて推薦した王密という人から夜中に賄賂を贈られそうになり、王密が「夜なので誰も知りません」と言ったのに対し、楊震は「『天が知り、地が知り、私が知り、あなたも知っている。どうして誰も知らないと言えようか』と答え賄賂を拒否した。」という故事に由来しているとのこと。これは、「誰も知らないだろうと想着いても、隠し事というものは必ず、ばれてしまう」という意味でよく用いられますが、「ばれるからやめろ」という消極的なことではなく、「人が見ていようが見ていまいが関係なく、常に自分が正しいと思ったことをしなさい」という意味ではないか。とも言われています。私も最近、「自分の信じる道を生きていく事の大切さを説いた故事成語」と感じるようになりました。保護者の皆様も、2学期末の懇談や冬休み等を、お子様と「これから進む道」について話し合う機会にさせていただければと思います。我々教職員も、お子様が信じた道を進めるよう、サポートして参りたいと存じます。

令和7年も残り1か月となりました。今年一年の振り返りと、新しい年に思いを馳せながら、皆と一緒に過ごす時間を大切に、大掃除の手伝いや一緒に料理を作ったりする良い機会にしてください。最後に、インフルエンザやノロウイルスも流行る季節なので、感染症には特に気をつけて、規則正しい生活リズムで健康で有意義な冬休みをお過ごしください。

1 1 月行事報告

□公民館文化祭



2日に校区両地区の公民館文化祭が催されました。本校からも美術の作品を展示していただき、学年が上がるにつれ、作品の表現力や繊細さ等のクオリティーが上がっていくように感じました。

□生徒総会



後期の生徒総会が行われ、新たな執行部からスローガンと活動方針が示されました。また、50期生が中心となり、各委員会から活動方針等が発表されました。後期も様々な取り組みが始まります。

□人権講演会



フォトジャーナリストの方を招聘し、世界各地で取材した紛争や災害の写真と、現地の様子をお話しいただきました。生徒たちも、世界各地で起きていることを集中して聞いていました。

□全校集会



校長講話、学級委員からの月目標発表、テニス部の伝達表彰を行いました。その後、前期生徒会執行部から「能勢ささゆり学園訪問」の報告会を持ちました。前期生徒会の皆さん、苦労様でした。

□避難訓練



火災想定での避難訓練を、期末試験二日目に実施しました。折しも、大分や香港での火災がニュースになっています。まずは自分の命を守る行動を、次に救える命を救う行動が取れるようにしましょう。

□豊西体験



校区の両小学校6年生に来てもらい、少しでも中学校生活を知ってもらおうと、50分の授業体験とクラブ紹介を行いました。生徒会執行部も挨拶で、「4月の入学を心待ちにしています」と伝えていました。